

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ
市議団ニュース

<第3回定例会>

2016年10月11日

No. 158

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

「下請の末端に至るまで設計労務単価に見合った賃金を」——建設労働者の賃上げ求める

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は7日、決算特別委員会で本市発注工事に携わる労働者の賃金引き上げについて質問しました。

伊藤議員は、建設現場で働く労働者の賃金引き上げへ、国が毎年、都道府県や政令市に通知をだし、賃金に相当する設計労務単価を2012年以降4年間で34.7%と大幅に引き上げてきたことを指摘、「貧困化のもと、本市でも多くの若者が市内で働き続けることに展望が持てず道外に流出している」「本市発注の工事で、下請けの末端に至るまで設計労務単価に見合った賃金の引き上げが必要」「本市としてどのような取り組みをしているのか」とたずねました。

前川工事管理室長は、「設計労務単価は本来、建設労働者に支払われる賃金を定めるもの、引き上げは適切に行われるべき」、そのため「本市として入札に参加する企業に指導文書を送付している」とのべました。

伊藤議員は、北海道が「下請状況等調査」を実施し、労働者の積算賃金が設計労務単価を1円でも下回った場合、「適切な賃金の確保」を要請していることを示し、「こうした具体的な対策を行うべき」とたずねました。また、本市が実施している「元請・下請関係実態調査」の賃金の設問が、『引き上げた』『引き上げていない』では、100円でも『引き上げた』となり実態を把握できない。設計労務単価に見合ったものか判断できるよう改善すべき」とたずねました。

大関管財部長は、「北海道などの事例も参考にしながら労働環境の向上に資する取り組みを検討していきたい」、また、賃金の設問について「企業側の負担も考慮しながら慎重に検討したい」とのべました。

交通安全対策——道路の改良整備は、都心に流入する車を減らすことを基本に

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は7日、決算特別委員会で道路の改良整備、交通安全施策について質問しました。

村上議員は、交通事故は全国的に減少傾向にあるものの年間約63万件で4000人以上が亡くなっており、その7割が幹線道路であることを示し、本市の幹線道路の危険箇所と対策、渋滞と事故発生の関連についてたずねました。

小林土木部長は、「事故危険箇所は67カ所が指定され、そのうち63カ所が交差点で、右折時に歩行者を巻き込む事故などが多い」「対策としては右折車線の新設などで、事故件数で35%の削減効果が確認できた」とし、こうした効果から見て「渋滞と事故は一定関係があると考えられる」とのべました。

村上議員は、「本市の事故分布図を見ると都心部とその周辺が多く、渋滞も影響している」として、「今後の交通政策を考えるうえで、公共交通の利用促進により都心部に流入する車を減らすこと、とくに出勤時間帯の渋滞を減らすことが肝要」と指摘。また、「道内の人身事故多発交差点ワースト5はすべて札幌」と報じられた問題で、うち4地点が札幌道の高架下で、「幹線道路で車線が多いうえ、橋脚により日陰となり日中でも暗く見通しが悪い」とされているとのべ、道路の改良整備は「こうした構造上の問題を踏まえる必要がある」と強調、高架・地下トンネル・交差点改良の3案で検討されている都心アクセス道路の問題を指摘しました。